

## 地軸

被爆の語り  
部、沼田鈴子  
さんが亡くな  
った。愛媛で

も、松山大などにゆかりのアオギリが植樹され、学生とも交流があった。反核平和の訴えが根付き、広がることを祈る▲昨夏の本紙連載で、沼田さんは証言を始めた心情を「黙ってちゃ真実は伝わらない。生かされた者の使命として原爆の恐ろしさを伝えよう」と語った。偏見と葛藤を超えた重い決断。もったその言葉を聞きたかった▲個人の「物語」はデータや数字より強く、人の心や世の中を動かす。東京・国際医療福祉大大学院のインターネット授業「『エビデンス』と『物語』の出会い」を受講し、ハンセン病回復者平沢保治さんの話を聞いてその思いを強くした▲「誤診であっても、死ぬまで療養所から出られない。ラッキョウ3個と麦飯だけ」「人生を、人間性をすべて奪われた」。それでも、こう呼びかける。「私は恨みを恨みで返さない」「誰もが1%だけ人のために生きれば、素晴らしい世の中になるだろう」▲別の回では、患者や家族のインタビュー映像などを集めたサイト「健康と病いの語り」に登場した体験者が、病と向き合う勇氣やつらさを率直に語った。誰かの役に立ちたいという熱意と、必死に耳を傾ける学生の熱意が、確かに伝わってくる▲記憶が、記録が残っている限り、物語は続く。それがきっと、より良い社会を目指す原動力になる。